
『『万華鏡水銀毒いところ子犬』』

朝昼夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『『万華鏡水銀毒いとこ子犬』』

【Nコード】

N7682M

【作者名】

朝昼夜

【あらすじ】

最近こつこつ適当な話ばかり作るようになってしまった。

万華鏡のように、世界が回転する。崩壊する。といった感覚がせしめてくる日々の中で、職務は全うしている。よって、責任は皆無。弾けた、水銀の毒が人に染み込めば苦しみは広がるのと同様に、人間の持つている害が弾ければ地表は濃み上がる。やがて腐れ果てたその地球で、彼らは今日も生きていた。歪んだ風に、生きていたそれは数百年前から続いていたことだったが、特にこれまでと変わるモノでも無い。何時までも変化は無いままに、人々は突き進んでいく、輝きの中を。真っ白になって。

仕事をしていた。何時からなのかはもう思い出したくも無い。最近はあることも放棄している。

それをやってしまうと世界が回転してしまうのである。

万華鏡が崩壊させるのだ。

嘘、嘘。そんなわざとらしいことじゃなくて、ただ単にしんどいから考え事をしたくないだけ。疲れてんだよね、最近。

疲れてるから万華鏡とか言い出した。つても、最近テレビで万華鏡のことをやってたの。からっぽの頭でそれ見てたら綺麗だな、って思っつて、その跡にこういう万華鏡が世界崩壊とか、そういう文章を書いてみたいって思いついたんだけど、書く前に仕事仕事。ってというのが現実だ。

サービス残業っていう代物自体には、そこまで不満も持つちゃいない。私が不満なのは同僚の私に対する不適切な対応である。サービスしている私に対してちっとも優しくないんだよなあ。なんでだろ、私の性格が悪いせいだろうか？

そういうわけで、学生のいとこに尋ねてみた。何でも素直に答えてくれる優しい子であるから、聞いてみたのだ。

平然とした顔のまま、彼は私に言う。

しいいところであるだけに、核心を突く時は冷えているのだった。

「嫌われてるんじゃない(笑)」

子犬が、「わんっ」って応えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7682m/>

『『万華鏡水銀毒いとこ子犬』』

2010年10月22日00時15分発行